映画村で土日に扮装バイト

入社5年、芸能熱再び

はい上がる人 わたしの歩跡

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(52)＝草津市⑩

高校卒業後の就職先が決まってなくて、先生に呼ばれて進路指導室に行ったら「これ、運動関係やぞ。のちのちスポーツ施設を作る会社やわ」と勧めてくださって、面接だけでOKしてもらったんです。初めての新卒採用でした。高校生なりに名前の通った会社に勤めたかったんで、「こんな小さい会社や」って、建設関係の仕事をしている父親＝義行さん(76)＝に書類を見せたら、社長の名前を見て「有名な人やぞ」って。実は奥深い会社でした。

≪1985年春、私立比叡山高校を卒業し、大津市の不動産関連会社に入社する。社長だった上田茂行さんは、25歳だった72年に戦後生まれで初めて衆院議員に当選し、1期を務めた。首相になる田中角栄氏（故人）の秘書を務めたこともあった≫

僕らスポーツ事業部の3人は「遊ぶ人を相手にするんやから遊んどかなあかん。毎日何かスポーツをしなさい」って言われ、朝、タイムカードを押して「きょうは朽木のスキー場に行こか」って。ウインドサーフィン、テニス、ゴルフの打ちっ放し。何時に何人が打っているとか調査をして。夕方に会社に戻り、「お疲れさん」ってねぎらわれて帰る。うそのような会社でしたね。

スポーツショップの計画があって、やったことないテニス担当と言われ、ディスカウント店でラケットを買って、持ち方も本で覚えて。壁打ちをガンガンして、2年ぐらいしてコーチの養成学校に通って、コーチをするほどの腕前になりまして。

≪上田社長が政界復帰を狙い、86年の参院選に自民党公認で立候補することになった≫

「土平君、ごめん。この日のこの時間、社長の運転してほしんやわ」って頼まれ、演説会の道順から全部調べて運転手として県内ずーっといろんな所を巡りましたね。大きなセンチュリーとかに乗っていましたわ。元大津市長で現職の山田耕三郎さん（故人）に負けて、会社内が天と地ほど暗くなりましてね。

≪仕事の傍ら、カヌー競技も続け、選手・監督として4大会連続で国体に出場した。さすがに芸能活動までは手が出せず、社会人1年目に活動を休んでいた≫

会社には内緒で土日に始めた扮装バイト。時代劇のオープンセットの中で、観光客と記念写真を撮る
＝京都市右京区の東映太秦映画村で、いずれも本人提供

入社4年目の1988年8月、社内で

カヌーが一段落して気づいたんです。忘れてたことがあった、芸能置きっ放しやったって。すぐに行動する方なんで、次の日に東映京都撮影所（京都市右京区）に電話して「5年前に休ませてほしいと言った土平ですけど、実はまたやりたいんです」。20歳で結婚して子どももいたんで、東映の所長さんが「家族おるのに絶対やめとき。食べられへんから」＝納得したいんです。このまま40、50歳になって、やっとけば良かったって思うのが嫌なんです」「仕出し（エキストラ）でも現場はないよ」「何でもいいですからやらせてください」「東映太秦映画村で侍の格好して一日立っといて、観光客と写真を撮る仕事はあるわ」って紹介してくれたんです。

映画村も、ようはやっている頃です。会社には内緒で土日に扮装（ふんそう）バイト（扮バイ）を始めて。俳優になれるとは正直思っていなくて、しっかり吹っ切って終わりたいという気持ちだったんですけど、それがこの世界をスタートするきっかけになるんですね。

【エリア編集委員・大澤重人】

＝つづく、水曜掲載

「運はつかむもの」共感する書き込み

駅で偶然、張り紙を見て俳優養成所に通ったことについて「こういうチョットしたきっかけが、我々の周りにも転がっていますが、思い切ってつかみに行く事が大切ですね!!」などの感想がドンペイさんのフェイスブックに寄せられました。